



園長だより



アメリカで運転していると(沖縄の軍の方も)前の車の後ろの部分に「My child is an honor student _____Elementary School」などと書いてあるステッカーを見かけます。これは、「私の子供は良い成績を取りました ○○小学校」というような意味になります。日本人の車に自分の子供のことを大っぴらの自慢するようなステッカーを見ることはないと思います。あまりよくできないことでもできるという欧米の文化と、できることでも、あまりよくできないという日本の文化の違いなのだと思います。

さて、子供のことを車にステッカーを張って自慢することはないかもしれませんが、一緒にいる時に子供が褒められたときに親としてどのように反応すればいいのでしょうか?このような会話を聞いたことはありますか?

(子供の前で)

相手「お宅の○○ちゃん、とてもやさしくて気配り上手さんですよね~！」

親「いえいえ、全然そんな事ないですよ~。」

社会の事情をわかっている大人がこの会話をきいたら、これは親が謙遜しているのだとわかり、美德とされますが、まだ本音と建て前の違いがわからない子供の場合は果たしてこれを謙遜と受け取れるのか、私には疑問が残ります。「僕/私は優しくないんだ、気配りができないんだ」と受け取ってしまう可能性があると思います。西洋的な考え方かもしれませんが、代わりに「そのようなことを言ってくださって、ありがとうございます」などと答えるとこどもの自尊心を大切にでき、良いのではないかと思います。

また、親同士や、友達同士で話すときに(子供のいる前で)、「うちの子は言うことを聞かないのよ。ホント困っちゃうんだよね。」とか、「うちの子は好き嫌いが多くて、、、」というような、子供ができないことや苦手なことを話すことはないでしょうか。日本人は文化的に謙遜したり、できることもあまりできない、という風潮がありますが、子供の前で子供のしつけのこと、苦手なことを言ったりすると、子供はそれを聞いていて、自分は○○ができないのだ、自分は言うことを聞かない子なのだ、と考えるようになります。もちろん、お友達やほかの人に相談したり、アドバイスをもらったり、話を聞いてもらう必要があるかもしれませんが、しかし、子供が親の評価を聞いていて、それが自尊心や自分の評価につながるということを考えて、発言に気を付けてみてはいかがでしょうか。

2017年5月31日

石川三育保育園 園長 ミラー・ジョエル